

道の駅の リピーター確保策は

馬淵 紀明議員

市内周遊を促進し獲得につなげていく
産業建設部長



▲水遊びでにぎわうHASUパーク

問 今年4月に、道の駅ふれあいの里HASUパークがグランドオープン。その後の来客数は、

答 グランドオープン以降5月10日までで、来場者数はレジ通過者数及び駐車台数から換算すると18万5千人超となっている。

問 今年4月に、道の駅ふれあいの里HASUパークがグランドオープン。その後の来客数は、

答 1日当たりの利用者は、旧直売施設の令和6年度の1日当たりと比較した場合、約1・25倍、1日当たりの売上げについても令和6年度の1日当たりと比較した場合、約1・7倍となっている。

問 産直広場は、昨年4月に先行オープンして1年が経過した。旧直売施設と比較して、昨年1年

問 リピーターを確保しつつ市内全域の飲食店、また観光地へ波及させていく回遊、周遊を促す仕

組みづくりが重要と考える。市や指定管理者、観光協会、地元事業者などと連携してどのようにリピーター確保に努めているのか。

答 HASUパークを本市観光の拠点として位置づけ、地域全体に経済効果を波及させることが重要であると認識している。引き続き、指定管理者、観光協会、商工会などの連携体制を一層強化していく。具体的には、HASUパークを起点とした周辺飲食店や観光地への情報発信の強化及び関係団体と協働したイベントの開催などを通じ、市内周遊を促進し、こうした取組を通じて地域全体の魅力を高め、継続的な来訪者の獲得につなげていく。

大会後のレガシーを残す考えは

問 大会やイベントが終わった後、何を残し、どう伝えていくかはとても大事なテーマだ。単なる思い出づくりではなく、アジア・アジアパラ競技大会を契機とした取組みを通して、市民、子どもたちへどのようなレガシーを残すことを考えているのか。

答 アジア大会というビッグイベントを活用して、ボート競技、レガッタの普及、スポーツへの関心の向上のほかに、地域住民の方がボランティアとして大会に従事し、大会の成功を共有することで連帯感が高められると考える。また、ボッチャ競技体験を通して多様性を認め合い、誰もが活躍できる共生社会への理解が高められると考えている。